徳島新聞　２０２１年（令和３年）５月２８日　金曜日（２４）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

古川（Ｊクラシック）６位 県勢最高

木村（グランディ）９位 勢井（月の宮）14位

ゴルフ　四国アマチュア選手権

ゴルフの第40回四国アマチュア選手権最終日は27日、グランディ鳴門ゴルフクラブ（東コース7013ヤード、パー72）で91人が出場して決勝ラウンドが行われた。徳島県勢は、生光学園高3年の古川惣一朗（Ｊクラシック）が通算1オーバーの217で6位に入ったが、上位5人に与えられる日本アマチュア選手権（6月29日～7月2日・茨城県大利根ＣＣ）の出場権を惜しくも逃した。

このほか県勢では、木村剛志（グランディ）が通算4オーバーの220で9位、生光学園高3年の勢井乃樹（月の宮）は223で14位だった。3日間首位を守った新居浜東中3年の松井琳空海（愛媛・新居浜）が、通算6アンダーの210で初優勝した。

最終成績（９位まで）

①松井琳空海（新居浜）	－６	210（68、69、73＝35、38）
②香川　凜央（西　条）	－４	212（72、69、71＝36、35）
②福住　　修（スカイ）		212（70、70、72＝35、37）
④谷本伊知郎（高松グ）	－２	214（68、70、76＝38、38）
⑤福住　　将（スカイ）	±０	216（68、74、74＝35、39）
⑥古川惣一朗（Ｊクラ）	＋１	217（70、72、75＝37、38）
⑦古瀬幸一朗（満　濃）	＋３	219（75、71、73＝36、37）
⑦竹内　瑛信（北　条）		219（71、70、78＝39、39）
⑨亀井　壮汰（琴　平）	＋４	220（77、70、73＝37、36）
⑨田所　裕槻（スカイ）		220（71、73、76＝39、37）
⑨木村　剛志（グラン）		220（73、71、76＝37、39）
⑨田村　軍馬（久　万）		220（71、70、79＝39、40）

（スカイはスカイペイ、高松グは高松グランド、ＪクラはＪクラシック、満濃は満濃ヒルズ、グランはグランディ）

最後に重圧 全国逃す　古川

昨年は新型コロナウイルスの影響で大会が中止となったため、2年ぶりの開催だった。

〈13位以下の徳島県関係〉
▽最終成績⑭勢井乃樹（月の宮）223（72、76、75）㉕尾崎竜二（阿南）228（74、80、74）㉕濱渕裕生（鳴門）228（76、76、76）㉛篠原和樹（レオマ）229（72、78、79）㉜吉井渓介（阿南）230（77、73、80）㊸小野寺秀樹（鳴門）235（76、84、75）㊽福島慎也（Ｊクラシック）237（74、81、82）⑦武田紘汰（月の宮）243（89、74、80）㉟岡本浩希（御所）250（85、83、82）㉟山本真之（タカガワ西）250（82、82、86）㊴木主達也（月の宮）252（80、86、86）

徳島県勢最高位の６位に入った古川＝グランディ鳴門ＧＣ

勢井乃樹（前日から順位を四つ上げて14位）「３パットが続き、出だしの３ホールを1ダブルボギー、2ボギーとしてしまった。後半途中にスコアを二つ取り戻したが、最後まで流れに乗れなかった」

○…目標にしていた来年のシード権確保（30位以内）に加え、トップ10入りを果たした木村＝写真＝は「上出来の成績」と3日間を総括した。

ホームコースとはいえ、フェアウエーが雨でぬかるんだこの日のラウンドは誤算続きだった。アイアンがしっかりボールを捉えられないため、飛距離が思うように出ず「かなり難しかった」。1バーディー、3ボギーで迎えた15番で2メートルのバーディーパットを外すと、16、17番で連続ボギーをたたいて後退した。「普段は後半にバーディーを増やすタイプなんだけど」と、疲れと安堵（あんど）をにじませた。

昨年は新型コロナウイルスの影響で大会が中止となったため、2年ぶりの開催だった。

選で雪辱を期す。2度目の日本アマ出場を目指す17歳は「ショットを修正して勝ち上がりたい」と気持ちを切り替えていた。（須見千次郎）

今大会で全国大会行きの切符を手にすることはできなかったが、6月に兵庫県で開かれる日本アマチュア選手権西日本予定6位に付けていた。

18番のティーショットをＯＢした古川は「バーディーセーブで終えようと思ったら緊張して体が動かなくなった」と唇をかんだ。日本アマチュア選手権の出場が懸かった最終ホールの重圧を感じたという。

前日も最終9番で第1打を左にそらした。後半に入って17番まで我慢強くパーセーブを続けていただけに、2日続けての悪夢に「悔しい。だいぶ悔しい」と感情をあらわにした。

調子は悪くなかった。難しいカップの位置と朝方降った雨の影響で上位陣のスコアは軒並み伸び悩んでいた。「前日よりショットの調子が良かったので攻めた」と9番のボギー以外は全てパーでまとめ、前半を終えて暫